

愛でAIを先制する



New Relic 株式会社 PR Manager
レイキティーチャー

佐藤真樹(ねこおとこ) *Maki Sato*

座長

小林 正学

現代社会は AI の急速な進化に揺れ動いている。新薬の創出加速やゲノム解析の高速化、老化逆転へのアプローチ——その一方で、AI によるサイバー脅威、孤独の穴埋めや雇用の奪取などの社会不安、人間の存在基盤を脅かす風潮も喧伝されている。私たちは AI に振り回され、その未来を必死に予測しようとしてはいないだろうか。

私は日頃、AI ビジネスの現場に身を置き、同時に PR や「物語（ナラティブ）」の紡ぎ手として、さらにはレイキヒーラーとしてエネルギーの循環に向き合っている。この3つの交差点に立つ私だからこそ、今、医療に携わる皆様に共有したい確信がある。それは、AI の登場によって、人間（医療者も患者も）は機能的な業務をテクノロジーに委ね、本来の人生を味わい愛するという「愛の活動、創造の活動」にエネルギーを全振りできる時代が来た、ということだ。

「AI」と「愛」の響きが同じなのは、単なる偶然だろうか。

カバラ思想における「アイン（無・無限）」、主体としての「I」、世界を観測する「Eye（眼）」。人間がAIを創り、AIがさらに高次の知性を生み出そうとするフラクタル構造。そしてアーティストの藤井風が楽曲『Prema』で「あなたは愛、あなたは神」と歌う世界観。これらはすべて地続きである。もし、私たち一人一人が主体（I）としてこの世界を観測（Eye）し、内なる愛を放射して現実を創造しているのだとしたら、世界とは無数の観測者の相互作用によって編み上げられる、動的な関係性の物語に他ならない。

この視点は、臨床の場においてより切実な意味を持つ。どれほど優れた薬やAIの治療計画があっても、最後に治癒のスイッチを押すのは、患者自身の生命力であり、「治りたい」という意志の力ではないだろうか。そして、その意志という名のエネルギーを駆動させるのは、物語のプロとして、またヒーラーとして確信している、医療者が根源的に持つ「信念、情熱、世界観（愛）の伝播」である。医療者の放つ愛のエネルギーが患者の物語と響き合ったとき、真の自然治癒力が覚醒していく。

医療の本質に必要なのは、これまでも、そしてAI時代においても「愛」という名の関わりである。AI時代とは、人間がその最も大切な純粋性を追求すべき時代が来たことを意味している。

本講演では、AI・物語・エネルギーの現場での実感をもとに、外的な予測に頼るのではなく、内なる「愛」によって時代を先制する（主導権を握る）生き方を提案する。医療者と患者がいかにして愛を響かせ合い、共に新たな癒やしの物語を紡ぐのか。これからのメンタルケアや人間の精神性の可能性について、皆様と共に考察を深めたい。

略歴

一般社団法人 日本レイキヒーリング・アソシエーション 認定レイキティーチャー／ヒーラー
日本 PR 協会認定 PR プランナー